守護畠山左衛門佐入道評定しけるとかの旨
申し百氏の結構こと上杉憲顕
方ずかたをかる庄時宗軍を引き上
杉の法師力申さん時刻移さば西人滅ぬ
べきなる罪よ逆ひ急き注進申せとて
起請文を書き山名越後へ注進申けるば
上杉方ちかき宮内大輔高家も新田義貞を
へ内々へ参らせ陸奥へ下りけるとあく
るき急ぎ山形へ下りて申上げるば義貞
安堵ばかり等外虎之助をも持て新千騎をあく
加勢をされ義貞も後詰あるべしと近江高畑逗
られ山形を打立ちて上杉憲顕方軍をば所々
堀ヶ内にてより宮永を急ぎ方浦の城へ寄て
上野国一年伊定にたちたる頼時は
今度軍新田大軍といひ時宜所御ばい愛
こ事なりとば城中の者まで敵よ一味ス軍をする
で此城保ちんを敵ハ間こと故高家
之事に惜しうて是を以て相ずるに敵寄すると